

四旬節第5主日の説教

金 大烈 神父 2009年3月29日(日)

《絶対的な価値》

おはようございます。

少し哲学的な話から始めようと思います。皆様、人間は意味を食べながら生きている動物と言われているのを聞いたことがあると思います。それは、人間は意味がなかったら生きにくいということです。ですから私達は無意識的にも意味をつけながら生きようとする傾向があります。例えば、何かに失敗したとしましょう。その失敗は失敗のままで終わるのではなくて、成功の為に踏まなければならない大切な1つのプロセス(過程)だと自ら自分を慰めようとします。そして、実際に慰安になる場合が多いです。そう思わなければ悔しい事や、辛いことに耐えることが難しくなってしまいます。皆様も朝目が覚めて一日をいろいろな思いを持ちながら過ごしています。意味ある一日を迎えているんでしょうか。毎日意味がある事を沢山して生活している人は「私は今日一日とても良かった。」と告白することが自然に出来るでしょう。とにかく人間は信仰を持っていても、持っていなくても意味を探し、求めて動く生命体です。皆さんが毎日出会う時間、関わり、自然その中で意味を探せるのでしょうか？探そうとする目、心があればあらゆるものに意味があるかもしれません。

私は今日一段階上の話を皆様に申し上げます。信者でありながらこれをしなかったらむなしくなる事について話します。意味より一つ上の段階のレベルの事は何でしょうか？『価値』です。私達、信仰者は意味を探す事だけに満足してはいけません。一段階乗り越えて『価値』があることを命のように探して動かなければならないのです。『価値』があるとはどのようなことでしょうか？意味は犠牲を払わなくても探せます。価値があるものには必ず犠牲が付いてきます。

犠牲するのが好きで犠牲を楽しむ人は、この世の中にいないと思います。しかし神様がそのように創ったのでしょうか？素晴らしい価値のあることには必ず犠牲が付くのです。犠牲がなかったら価値のあることを手に入れる事が出来ないのです。福音書にはいくつかのイエス様の逆説的な教えが話されています。その中で一番逆説的な言葉が今日の福音で読まれました。それは、「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」結論を申し上げます。私達がいろいろな価値が有ることを求めるのは自然な態度だと思います。しかしその中に絶対変わらない価値を持っていることがあります。皆様にとっての絶対的な価値とは何でしょうか？それが分かる為にもう一度伺います。私たちはなぜ信仰を持っているのでしょうか？そこから絶対的な価値があることが分かります。私たちが信仰を持っている理由は、今日の福音で読まれたように、永遠の命を得るためです。がんばってもむなしさを感じるこの世の価値ではなく、絶対変わらない世界、イエス様によって約束された永遠の命が与えられる世界を待ちながら生きることではないでしょうか？それが、私達の信仰の目的ではないでしょうか？もちろんお互いに愛し合い、励ましあい、いろいろなことがあります。最後の事を考えると結局私が求めなくてはならないことは何のことであるかが分かります。皆様、絶対的な価値の為に意識しなければなりません。今までどの位価値ある人生を送ってきたかは、神様と自分だけにしか分かりません。遅いことはありません。これから与えられた残りの人生、出来るだけ価値のある生き方をしましょう。犠牲を払っても本当に価値があればその犠牲は喜びに変わります。例えば親が子供の為に惜しみなく何でも与えられる事と同じことです。それが自然に私達の心にしみている何かの動きだから、私達の人生が意味、価値のあるものになって喜ばれると思います。

今日の福音(ヨハネ 12・20-33)でイエス様はご自分の心境について話しています。「私は心が騒ぐ」と言う言葉でした。イエス様も人間的な葛藤や恐れがあったのでしょうか。先が全然見えない部分もあったのではないのでしょうか。しかし、この方は自分の人生、命を受け入れた目的をはっきりわかって

いました。人間の弱さは目的をわかって迷います、当然のことです。迷う事が大事なことでなく、目的がはっきりしていることが何よりも大切な事です。だからイエス様は自分に与えられた十字架の道を、勇気をもって受け入れ抱きしめたのでしょう。皆様もいろいろな飲まなくてはいけない杯を持っていると思います。その杯が神様の御旨だと思って受け入れて下さい。それが私達の探せる唯一の喜びの道であることを悟っていただきたいです。

皆様、私達は生きます。その生きる道、路程の中で出来るだけ価値のある犠牲を喜びながら払いましょう。そうすれば今まで感じられなかった喜びの体験が与えられると私は信じます。

ありがとうございました。